

## 原子力県民講座 質疑応答録

- ・平成25年3月17日(日)に開催しました「原子力県民講座」の出席者の方々からの質問事項と山本先生からの回答をまとめました。
- ・時間の制約上、会場で回答できなかったものについて記載しています。

### ①原子力安全全般に関すること

No.	質問事項	回答
8	福島第一原発事故の教訓から様々な安全対策が進められているが、短期対策はどのようなものか？長期対策は？	例えば、非常用電源を高所に設置したり、防潮堤を建設するなどの津波対策が短期対策として取られている。長期対策としては、原子力規制委員会による新規制基準に対応するなど、さらに信頼性が向上するような取組が取られることになる。また、過酷事故なども含め、トラブルにしっかり対応できる人材を育てていくことも肝要。

### ③国の規制(規制基準等)に関すること

No.	質問事項	回答
5	新規制基準に沿った原発は、これまでよりもリスクは下がるか？他の発電施設(火力や水力)と同等またはそれ以下になると考えられるか？	安全対策が強化されているので、その分リスクが低減していることは確か。一方、安全対策そのものがリスク要因となることもあり得るので、実際の安全対策の取り入れや工事にあたっては、十分に注意が必要。他の発電所施設との比較については、いろいろな種類のリスクがあり、どのように評価するかによって異なるので、単純には比較できないのでは。
6	最近活断層に立地する原発が危惧されているが、これは完全に停止すべきか？また、安全対策は可能か？	存在している断層によって発生する地震が原子炉施設にどのように影響を与えるのかをきちんと評価することが重要。停止すべきか、どのような安全対策が有効かについては、発電所ごとに事情が異なるので、それぞれ発電所ごとの状況を十分に検討する必要があるのでは。

④浜岡原子力発電所固有のもので工学的判断が伴うもの

No.	質問事項	回答
1	浜岡原発の安全対策は東海地震に対して有効だと考えているか？	安全対策の基本方針については深層防護の考え方に則っており適切だと思う。ただし、未だ安全対策は完了しておらず、また、原子力規制委員会の新規制基準に対する適合も国によって確認されていない状況。さらに自主的な対策も進められると聞いているので、現時点での判断は難しい。

⑤浜岡原子力発電所固有のもので④以外のもの

No.	質問事項	回答
1	安全対策に多大な費用がかかるので、安価な電力供給にならなくなるのでは？	様々な安全対策を実施するため、その分確実にコストがかかり、従来よりは発電コストは高くなる。例えば浜岡1, 2号機は地震対策にかかるコストを考慮して、経済的な理由から廃炉を決めた。今後、他の発電所でも経済的な理由から再稼働をしない選択をするところも出てくるかも知れない。